

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2005-2006

ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2510

No. 12 **6**
2006.



SERVICE Above Self

2005-2006 ガバナー月信

国際ロータリー第2510地区

2005-2006年度 ガバナー

塚原 房樹 FUSAKI TSUKAHARA

〒060-0042

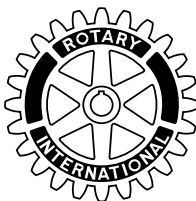
北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル3F

TEL・FAX(011)207-2510

e-mail : d2510go@wave.plala.or.jp

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2510

2005 - 06年度 国際ロータリーのテーマ



超我の奉仕

C O N T E N T S

ガバナーメッセージ	01
ガバナーノミニー決定宣言	04
ロータリーの友委員会報告	05
IM開催報告 第1グループ・第3グループ	06
IM開催報告 第10・11グループ	07
GSE報告	08
WCS報告	09
会員訃報・新入会員のご紹介	10
例会変更について・文庫通信	11
ご協力に感謝申し上げます・地区カレンダー	12
出席報告	13

■ガバナーメッセージ



2005 - 2006年度
国際ロータリー第2510地区
ガバナー 塚原 房樹

和魂洋才

昨年7月に会長幹事さんの皆さんと共にガバナーに就任して以来、早いもので一年の任期がもうすぐ終ろうとしています。おかげさまで無事に任期を終えることができそうです。まことにありがとうございます。いよいよ私の年度、最後のガバナーメッセージをお届けする時がまいりました。振り返ってみると私は月信でロータリープログラムや定款細則についてあまり触れませんでした。なぜなら地区にはそれぞれのプログラムのスペシャリストが地区委員長さんを務めておられます。したがって毎月の「強調月間」についてはそれぞれの委員長さんにお任せして、私はロータリー運動の本質について東洋哲学を背景にして「ロータリーとは何か」をお伝えしてきました。

ロータリーはもともと20世紀初頭の資本主義の欠陥が溢れるシカゴを舞台とした中世キリスト教神学（ピューリタニズム）の復興運動でありました。ロータリーには脈々としてピューリタニズムの精神が流れています。それを私は東洋哲学の立場でロータリーの社会的意義を説いてきました。ピューリタニズムと東洋哲学では、奉仕観の根底に違いがあります。月信の最終号にあたりその違いについて考えてみました。

欧米では生活そのものがキリスト教の訓えの中にあります。食事の作法も東洋とは違います。以前、目にした『パンはちぎって食べる』という小文を紹介します。

「(ヨーロッパのあるレストランで) 我々の反対側のテーブルに観光客風の日本人のカップルが座っていた。パンが来ると、男の方が丸かじりした。パンはちぎって食べよと日本でも言うけれども、小さなパンだと、つい、かぶりついてしまう人は今でも時折見かける。結局、マナーを暗記させるだけだからいざという時に駄目なのである。何故かという点を子供達に教えないのは大人の罪である。論理的に教えれば身につくのではないだろうか。何故ちぎるのか。これはキリスト教の《与える喜び》《分かち合う喜び》である。がぶりついてしまうと、もしここに突然、餓えて死にかかった可哀相な人が現れたら、口をつけていない方をあげることができない。だからパンは二つ割りもしくは、小さくちぎって食べなさいということになる。即ち、かぶりつく「品の悪い人」「育ちの悪い人」どころではなく、もっと卑しいレベルの最低の人間と思われかねないのである。ここまで、説明すれば人目の気になる日本人ならばすぐにこのマナーはマスターするであろう」

この小文を読んで、キリスト教ではパンはイエスの身体であり、最後の晩餐の席上で12人の弟子たちにパンを取って賛美の祈りを捧げ、それを裂いてお渡しになったという歴史的背景があることを知ります。

しかし、これはキリスト教の歴史に裏打ちされたマナーです。東洋には無い一神教世界の文化です。東は東、西は西という言葉を実感します。

キリスト教の根底にあるのは「禁断の木の実」を食べたアダムとイブの原罪説です。ピューリタニズムでは墮落した人間はどんなに修養を重ねても許されません。彼らにとってこの世は涙の谷であり、やがて終るべき旅路に過ぎません。

しかも彼らは神の栄光を増すためにこの世を少しでも神の国に近づけようと努力するし、それが神に許される証となるのです。こうしてこの短い人生の旅路はやがて終るのだから我々は昼のうち仕事をしておかねばならないという緊迫した気持ちを生みます。この世の楽しみを捨てて、全て

を隣人愛の実践に捧げねばならないという巨大なエネルギーがほとばしり出ることになりました。そして経済活動を、神の栄光を讃え隣人愛を実践する手段と考えました。これが「ボケーショナルサービス」、職業奉仕の原点なのです。ロータリーの奉仕観にも、背景には「罪を詳らかにし、また許す神」との緊張感があります。

一方日本の社会は東洋哲学（儒教・仏教・神道）が人々の生活を律してきました。

特に儒教ではこの世と人間との関係は徹底した楽観主義に立っています。つまり儒教の考え方によると、この世はさまざまな世界のあり方の中で最上のもの、そしてピューリタニズムとまったく逆に、人間の本性も善であり、修養すれば仏にもなれます。儒教の目指す人間の理想像は君子という表現で示されます。君子は徳が高いといわれていますが、それは道に従うことであり、この道とは一定の理法に従う世界秩序のことです。つまり人倫の道に従うことがこの世で目指す理想となります。儒教ではそうした外面的な作法、世間体を出来るだけ守り、そのために自分を抑制します。ロータリーの災害救援寄付も会長さんが1,000円出すなら皆も右へ習えで、皆1,000円を寄付します。もちろん各種の奉仕プログラムにも皆協力します。その意味において日本は世界第2のロータリー国であり、大きく国際ロータリーに貢献しています。しかし奉仕の動機に贖罪といった意識はありません。信ずる宗教の違いにより奉仕観に温度差があるのも事実でしょう。儒教での罪は秩序と調和を破ることであり、それは償いうる過ちであって、キリスト教の原罪といったものとはあまりにも遠くかけ隔っています。

このようにロータリーに対する接し方も、神の有無によりおのずと違いがあります。まず用語ですがロータリーで一番頻繁に出てくるものは「奉仕」という言葉でしょう。英語のサービスとは神に仕えることです。今申し上げたようにキリスト教の国では神に仕える奉仕という言葉に抵抗感がありません。なぜなら神が生活に密着しています。しかし日本では神社仏閣などでは清掃奉仕という言葉を使いますが、人との助け合いは奉仕とは云いません。日本語で奉仕と言うと、「値引き」「サービス品」といったイメージが先行して奉仕という言葉はどうしても馴染めません。神への贖罪という概念が無いからです。奉仕の実践そのものよりむしろ「天地の理法」を学び自己を練磨することがロータリーの目的と考えます。そもそも日本のロータリーは1920年、背後にあるピューリタニズムをそっくり抜いてアメリカから取り入れられました。しかしあらゆる文化的価値を追求する団体には背後に宗教・哲学といった純度の高いものの考え方が無ければ成り立ちません。日本ロータリーの黎明期、東京クラブのメンバーは米山さんを始めみな明治の士（さむらい）でした。みな東洋哲学は身に付けております。ロータリーを推進していく上で欠かせないものはそれぞれの国の宗教に裏打ちされた戒律、道徳、倫理観です。彼らはロータリー運動を推進するに当たり馴染みの薄いピューリタニズムに換えて東洋哲学を当ててロータリーを理解したのです。幸いロータリーの「隣人愛」はあらゆる国の宗教に内包された概念です。ただしキリスト教と仏教では根源的に「隣人への愛」はとらえ方が違います。キリスト教は根源的なものとして神を立て、神は愛を持って人間を作られたのだから、自分と同じく神の愛によって作られた隣人たちを愛して行かねばならないのです。

仏教はこれに対して根源に無我をおきます。我が無いということは自分と他人は2つでない、「自他不二」すなわち同じということです。自分も生きとし生けるもの一切の衆生も同じであるという認識から「一切の衆生を慈しめ」と慈悲の心を説きます。

明治維新政府は、近代国家を目指して西欧の科学の原理や文化、政治、経済の仕組みを積極的に取り入れました。それらは神との緊張関係の上に成り立っていましたが、ロータリーと同じように明治政府はそれらの背後にある宗教・哲学をすっかり抜いて導入しました。代わりにそれらの背後

に東洋哲学を置きました。そして西欧の文化を日本化して咀嚼することに成功しました。これを「和魂洋才」といいました。しかし第2次大戦後GHQにより日本の過去はすべて悪かったのだという空気が醸成されてしまいました。日本人は自分たちの過去、歴史にすっかり自信を失ってしまい、自分たちの文化、伝統、歴史を肯定的に捉えられない雰囲気が蔓延していったのです。日本人の心から東洋哲学が希薄となりました。哲学を失うと人は眼の無い魚のようになり自分がどこへ行くのかまったくわからなくなります。ただ現象を追って波間を漂うことになります。倫理、道徳、修身を忘れかつての「和魂洋才」が消えて、今は日本中「無魂洋才」の時代となりました。今、一番大切なことは単に生きることそのことではなくて、善く生きることです。善く生きるためには自分の成すべき事と為すべからざることを知らねばなりません。それを教えてくれるのが、宗教、哲学、道徳なのです。日本人の心の荒廃を憂います。

国際ロータリーもロータリーを興隆に導いてきた職業奉仕の哲学を捨てて、自ら人道的国際ボランティア団体、また世界最大のNPOであると宣言して久しくなりました。ロータリーの看板である職業奉仕の無いロータリーは魅力を失い会員は減少しました。文化的価値を追求する団体は良質な哲学を失うと瓦解してしまいます。しかし幸いにも制度疲労を起こしていた国際ロータリーに偉大な救世主が現れました。タイ国のピチャイ・ラタクル元RI会長は「奉仕の新世紀」にあたり、国際ロータリーが久しく無視してきた「職業奉仕」の再構築を強く訴えられました。タイは敬虔な仏教国です。ロータリーを自己改善の精神運動ととらえる日本人にとって仏教徒ラタクルさんの勇気ある発言は永い間待ち望んでいたものでした。

日ごろご指導いただいている2500地区の道下PGの昨年の賀状に、「何とかロータリーの栄光をもう一度取り戻したいものですね」と書かれていました。私も同じ思いでした。しかしラタクルさんのおかげで再びロータリーは過去の栄光を取り戻すことが出来ました。ロータリーの栄光とはロータリアンがロータリアンであることに誇りを持つが故に、ロータリーの職業奉仕に心から心酔し、謙虚にロータリーを学び、ロータリーの綱領を日常生活で実践していた良き時代のことです。そのために今、我々に課せられた務めは、現代社会から失われつつある東洋哲学を家庭生活に、職場に、地域社会に再構築することにほかなりません。

最後になりましたが、会長幹事の皆さんが益々ご健康で、今後のクラブ発展のために更なるご活躍されることをご祈念申し上げペンをおきます。
お世話になりありがとうございました。

ガバナーノミニー決定宣言

2008-2009年度国際ロータリー第2510地区ガバナー・ノミニーの選出については、地区ガバナー指名委員会より、矢橋温郎君（札幌西RC）が選出された旨、報告を受けました。

国際ロータリー細則第13条第2節（13.020.）に基づき、矢橋温郎君を2008-2009年度第2510地区ガバナー・ノミニーとすることを決定し、ここに宣言します。

2006年5月17日

国際ロータリー第2510地区

ガバナー 塚原房樹

2008-2009年度 ガバナー・ノミニー



会員名 や はし はる お
矢 橋 温 郎（札幌西RC）
生年月日 1934年（昭和9年）3月21日
出生地 兵庫県
自宅住所 札幌市中央区宮の森1条18丁目1-10
職業分類 測量
勤務先 北海航測株式会社 代表取締役会長

【学 歴】

1955年3月 岐阜大学農学部卒業

【職 歴】

1955年4月 中央測地株式会社（東京）
1964年 北海航測株式会社設立 代表取締役
現 在 北海航測株式会社 代表取締役会長

【ロータリー歴】

1979年 札幌西ロータリークラブ入会
1983～86年度 地区ローターアクト委員長
1984～85年度 地区ライラ委員
1987～88年度 クラブ幹事
1988～89年度 地区オン・ツー・ソウル委員
1989～91年度 地区GSE委員
1992～93年度 地区地域開発委員長
1993～95年度 地区GSE委員
1996～97年度 地区副幹事（札幌駐在・幹事）
1997～98年度 地区幹事（代表幹事）
1998年 退 会
2002年 札幌西ロータリークラブ再入会
2003～05年度 地区クラブ奉仕委員
2004～05年度 クラブ会長
2005～06年度 地区国際友好委員長

米山功労者、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



ロータリーの友委員会報告

ロータリーの友地区委員
黒澤昌彦 (札幌東RC)

5月8日(月)午後2時より「メルパルク TOKYO」においてロータリーの友地区委員・常任委員合同会議（新旧地区委員引継ぎオリエンテーション）が開催されました。

当地区よりは佐々木敦次期地区委員（札幌真駒内RC）と私が出席致しました。

渡邊 隆委員長挨拶の後、小林聡一郎常任委員より「友」地区委員の役割、二神典子編集長より「友」地区委員依頼項目・「地区のたより」の編集、本行輝雄事務所長からは「友」出版物についての説明がありました。また初山有恒常任委員のコーディネートにより、3名の地区委員代表から一年を振り返っての感想の発表がありました。

引き続き懇親会に入り、新旧地区委員・「友」事務所スタッフ・役員が暫しの間懇談し、この一年間、これからの一年間を労って散会しました。

「ロータリーの友」誌アンケート集計結果

クラブ雑誌委員長宛に「友」誌に関するアンケートをお願いしました。
集計結果は下記の通りです。(73クラブ中 39クラブより回答あり)

- ① 「ロータリーの友」誌を毎月、何週目に配布していますか。
 - 1) 1週目 (33クラブ)
 - 2) 2週目 (6クラブ)
- ② 毎月の配布の際、雑誌委員長が「友」誌の内容を解説していますか。解説するのは何分くらいですか。
 - 1) 解説する (11クラブ 3～7分くらい)
 - 2) 解説しない (28クラブ)
- ③ 「ロータリーの友」誌を毎月どの程度お読みになりますか。
 - 1) 毎号楽しみにしている (10)
 - 2) 一通り目を通して興味のある記事を読む (27)
 - 3) あまり読まない (2)
 - 4) ほとんど読まない (0)
- ④ クラブ雑誌委員長として、今年度特に力を入れてきたことは、どんなことですか。

・「ロータリーの友」誌を読んでもらうこと。	・「ロータリーの友」誌への投稿をお願いすること。
・「ロータリーの友」誌の内容の紹介をすること。	・「ロータリーの友」誌の広報すること。
- ⑤ パソコンで「ロータリーの友」ホームページ (<http://www.rotary-tomo.jp>) をご覧になったことがありますか。
 - 1) ある (16)
 - 2) ない (20)
 - 3) 回答なし (3)

「ある」とお答えになった方は、ご覧になった感想をお書き下さい。

・たいへん良く出来ている。	・ロータリーの情報を早く知ることができる。
・余り面白くない。	・データの古いものがある。
- ⑥ 「ロータリーの友」誌に関する、ロータリアンからの全般的なご意見のうち、主なものを3つお書き下さい。

・基本的なことが記載されており参考になる。	・他地区の活動を知ることができる。
・「友」誌に掲載され励みになる。	・表紙、風紋が素晴らしい。
	・読み易くなった。

以上ご協力有難うございます。

第1グループ

第1グループガバナー補佐室長
中 公一郎 (深川 RC)



塚原ガバナー

5月14日(日)第1グループIMが、深川RCをホストとして深川市のプラザホテル板倉にて「ロータリーの現況と展望」をテーマに午後1時より開催されました。会場には、第1グループ5クラブより102人の会員が参集。北村深川RC会長の歓迎の言葉、小田実行委員長の挨拶、河野深川市長の祝辞に次いで、IMリーダーの吉本ガバナー補佐が、第1グループのテーマとしてきた「超我の奉仕の理解とロータリーの簡素化」をこのIMを通じて、研鑽し、又グループ内の親睦も大いに深めていただきたい、と挨拶しました。記念講演に移り、塚原房樹ガバナーは、「超我の奉仕」を理解するうえで、ロータリーでの奉仕は、「育成と適用の二面があり」、「人を作ることであり、自己研鑽の場である」、「超我の奉仕」は、「自己と他者の利益を調和させることである」、「ロータリーが101年目を迎えた現在、過去の100年をきちっと総括し、職業奉仕の再構築が今こそ求められている」と問題提起、「ロータリーとは、人生の哲学そのものであります」と

締めくくりました。次に記念講演された遠藤正之のラストで、いろいろな切り口から、わかりやすく講演されました。

続いて、「ロータリーの感動体験と今後の課題」と題し、5クラブの代表により、具体的な活動に基づく事例発表がされ、会場は、感動と笑いの中で時が過ぎるのも忘れるほどの盛り上がりを見せました。塚原ガバナーの所感をいただき、次年度ガバナー補佐の、澤田茂会員(留萌RC)の紹介があり懇親会に入りました。懇親会では、各会長から幹事への「感謝の品」の贈呈やゲームも行われ、和やかな交流の場となりました。補佐室の渋谷会員のスムーズな司会もあり5時には「手に手つないで」、来年留萌での再会を約し、閉会いたしました。



吉本ガバナー補佐



会場風景

第3グループ

第3グループガバナー補佐幹事
本田 俊朗 (美唄 RC)

5月11日(木)、美唄ホテルスエヒロに於いて、塚原房樹ガバナーをお迎えして岩見沢RC、栗山RC、栗沢RC、江別RC、江別西RC、岩見沢東RC、当別RC、美唄RCから多数の参加を得て盛大に開催されました。

美唄RC下村雅朝IM幹事の総合司会で、円子保第3グループガバナー補佐の点鐘から始まり、吉村誠治副運営委員長の開会の言葉、坂東浩運営委員長から歓迎の言葉、円子保ガバナー補佐から来賓・役員・参加クラブ紹介と挨拶、美唄市佐藤昭雄助役の来賓祝辞に引き続き塚原房樹ガバナーから丁寧なご挨拶を頂き、その中で、ロータリークラブの在り方にもふれられ、出席者一同改めて深く感銘を受けました。

その後、奥山裕章美唄RC会長からの紹介で、北海道文化財団理事・NPO法人アルテピアッツァびばい理事長であります元副知事の磯田憲一様の「まちぢからの発見」と題しての示唆に富んだ講演がありました。

ガバナー講評の後、桃澤忠彦栗山RC会長から次期開催地会長挨拶を頂き、宝崎錠二副運営委員長の閉会の言葉、円子ガバナー補佐の点鐘でIMプログラムを閉じました。

引き続き、美唄RC会員のガイドで市内見学が行なわれ、道内有数の桜の名所“東明公園”磯田理事長の講演テーマでもある“アルテピアッツァびばい”を一巡しました。

懇親会は、美唄RC高橋幹事の司会により進められ、奥山裕章ホストクラブ会長の開宴の言葉、丸山淳士ガバナーエレクトの次年度へ向けての挨拶を添えての乾杯の音頭で始まり、参加クラブ会長からテーブルスピーチを頂きながら、和やかな雰囲気の中で親睦が深められました。最後は全員で“手に手つないで”を合唱し友情を確かめあい、北野保孝会長エレクトの音頭で万歳三唱をし閉会となりました。

円子ガバナー補佐並びに坂東運営委員長及び美唄RCの熱意と第3グループの総意で復活し盛会裏に終える事ができたIMでした。



塚原房樹ガバナーの講話を真剣に聞く参加者



好天の中アルテピアッツァびばいを鑑賞する

第10・11グループ

第11グループガバナー補佐室長 藪下 義晴 (函館北RC)

去る4月22日(土)、第10・11グループ合同によるインターシティミーティングが、ホテルオークランドを開場に開催されました。

今回は、ホストクラブを置かずに12クラブの会長・幹事で実行委員会を立ち上げての合同開催となりました。

当日は、ロータリー会員210余名の参加があり、また公私ともにご多忙の中、塚原房樹ガバナー、丸山淳士ガバナー・エレクト、さらに酒井正人ガバナー・ノミニーにご出席賜り、3年ぶりに開かれたIMを意義深いものにして頂きました。

ガバナー補佐の開会点鐘、ソングリーダー本間哲会員(函館五稜郭RC)のもと国歌「君が代」並びにロータリーソング斉唱の後、益田定雄実行委員長(函館北RC)から開会の挨拶があり、続いてガバナー補佐から来賓の紹介と参加クラブの紹介が行われました。

引き続き、本日のメインプログラムであります。塚原房樹ガバナーにより「ロータリーにおける奉仕」と題して講演をして頂きました。

講演では、草創期から現在までロータリーの歴史的背景や、奉仕の原点に触れ、千利休の言葉「茶の湯が盛んな事は、茶道が衰えるとき」に例え、ロータリーも「奉仕の心をつくる」「奉仕の心を適応する」例会を大切にしなければならない等、大変示唆に富んだお話を頂きました。

いつもながら塚原ガバナーの淡々とした口調の中にも、ロータリーに限らず、多方面に亘る造詣の深いお話に、参加者一同深く感銘しました。

講演の後、今回の合同IMの記念広報事業として、函館空港到着ロビーに掲げる、ロータリーの「ウェルカムボード」の披露を増田実行委員長が行い、最後に松浦勝副実行委員長(森RC)の閉会の挨拶で会を閉じました。

引き続き行われた交流会では、菅谷剛函館五稜郭RC会長の挨拶に続き、丸山淳士ガバナーエレクトの挨拶と音頭で祝杯をあげ交流会の幕開けとなりました。

さっそく会場内には賑やかな会話が弾み、おおいに懇親を深めあっておりました。

楽しい時間は過ぎ去るのも早く、お開きの時間となり、酒井正人ガバナーノミニーの乾杯の音頭で参加者一同グラスを干し、交流会を終了しました。

最後に全員が大きな輪を作り「手に手つないで」を高らかに歌い、まだ余韻の残る会場を後にしました。



ガバナー講演



来賓紹介



会場風景



交流会風景



交流会風景



2005～2006年度 タイ国RI3350地区へ派遣された GSEチームの帰国報告

GSE チームリーダー 橋本 信夫 (札幌西 RC)

去る2月25日に当地区からタイ・RI3350地区に派遣されたGSEチームは1ヶ月間のプログラムを全て終え、3月25日に無事帰国しました。一昨年11月のチーム結成以来、1年余の研修準備とタイ・プログラム実施中に寄せられた地区とGSE委員会のご配慮とご指導に心から御礼申し上げます。

今回のタイ・プログラムでは首都のバンコク市からタイ国中部のナコン・サワン市までの7地域で沢山のRCやホストファミリーのご好意により、職業研修も含めて様々な異文化体験を重ねることができました。この間に地区大会やクラブ例会に出席して挨拶やプレゼンテーションを行うとともに、各地で文化、教育、福祉、産業などの施設訪問、お祭り、イベントや名所巡りなどで多くの方々と出会い、親善交流を果たせたことを嬉しく思っています。

こうして人口700万余の巨大近代都市バンコクの活力溢れるビジネス社会やアユタヤ、チャイナート、ウタイタニー、ナコンサワンなどの自然と歴史遺産に恵まれた地方都市のゆったりとした伝統社会で、ホームステイしながらの生活体験はメンバーにとって生涯の楽しい思い出となりました。またメンバーの3名が医療関係者だったために全員で病院や福祉施設を巡ることも多く、終始まとまりのあるチームとして破綻なく研修と親善の目的を果たすことができました。

さらにタイでは、日本とカナダの2組のチームが3350地区で同時に展開したために、クラブ例会や地区行事で両チームが時折合流して親睦を重ねたことも大きな特徴として挙げられます。このためにプログラム内容もやや大規模で複雑となり、特に地区主催の記念行事では、イベントの企画とチームの受け入れが重なり、地区GSE委員会やホストクラブもこの運営に大変苦労されたと思われれます。

当然のことながら、タイ国ではタイ語に十分に通じていなければなりません。残念ながら日本での事前研修では英語に重点を置いていたため、英語が通じ難い地方ではコミュニケーション・ギャップが起きました。しかしメンバーはタイ語を猛勉強し、後半には片言のタイ語と指差し本を駆使してホストファミリーともかなりのコミュニケーションを図れるようになり、例会でのタイ語の挨拶はすこぶる好評でした。

こうして各地方のRCグループへの移動、ホストの交代による様々なホームステイ体験、地方の名所旧跡・寺社仏閣・各種施設の視察や実地研修などを通して短期間ながらタイ社会、文化、歴史、宗教などについての理解が一挙に深まり、タイ国に強い親近感を覚えるようになりました。

帰国して2ヶ月目の現在、タイ国で過ごした激動の1ヶ月間に体験した数々の出来事を反芻しながら私たちが暖かく迎え入れ、沢山の楽しい思い出や貴重な体験を与えて下さったタイの方々と3350地区のロータリアンに心から御礼を申し上げます。

これを機会に、日・タイ両国のロータリアンによるボーダーレスな国際親善交流が今後ますます発展するよう祈りながら帰国報告といたします。





室蘭東、室蘭北RCとチェンマイRCの ダムプロジェクトが完成

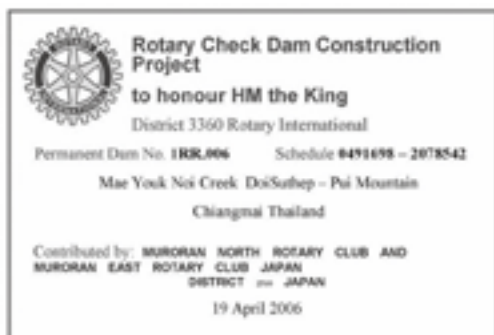
地区世界社会奉仕委員会

委員長 **齋藤修弥** (室蘭RC)

本年2月に締結された室蘭東、室蘭北RCとタイ国チェンマイRCのダム建設プロジェクトがようやく完成し、先日報告のメールと写真が送られてきました。チェンマイ地方は山岳地の為、雨季にはしばしば洪水に見舞われ、大きな被害が生じているそうです。

写真にはダム工事に取り組む子供から兵士にいたる沢山の人の姿が写されており、現地からはまだまだ多くのダム建設の要望が強いと報道されています。

一方、浄水施設の建設にも多くの希望が寄せられています。私たちはこれらの要請に応えるため将来を見通した、末永い支援事業を展開していきたいと願っています。どうか次年度も沢山のRCがこれらのクリーンウォータープロジェクトに応募されますようお待ちしております。



会員訃報



青山 栄一 会員
(函館北RC)
2006年3月7日
ご逝去 (享年56歳)

【ロータリー歴】

2003年(平成15年)4月2日入会
2004～2005年度 親睦活動副委員長、
出席副委員長
2005～2006年度 社会奉仕副委員長

【表彰】



鴨井 清一 会員
(室蘭RC)
2006年3月24日
ご逝去 (享年91歳)

【ロータリー歴】

1965年(昭和40年)7月1日入会
1972～1973年度 職業分類委員長
1977～1978年度 ロータリー財団委員長
1980～1981年度 国際奉仕委員長
1992～1993年度 会長
1995～1996年度 ロータリー情報委員長
2001～2002年度 ロータリー情報委員長

【表彰】

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
20年100%出席



長谷川 守 会員
(函館北RC)
2006年4月5日
ご逝去 (享年64歳)

【ロータリー歴】

2005年(平成17年)7月6日入会

【表彰】



岩倉 賢周 会員
(苫小牧RC)
2006年4月23日
ご逝去 (享年81歳)

【ロータリー歴】

1957年(昭和32年)1月25日入会
(チャーターメンバー)
1969年(昭和44年)5月2日再入会
1973～1974年度 国際奉仕委員長
1974～1975年度 姉妹クラブ委員長
1975～1976年度 副会長
1982～1983年度 S A A
1984～1985年度 会長
1985～1986年度 ロータリー情報委員長
1991～1992年度 職業分類委員長

【表彰】

ポール・ハリス・フェロー



前田 康博 会員
(室蘭東RC)
2006年4月23日
ご逝去 (享年63歳)

【ロータリー歴】

1987年(昭和62年)7月1日入会
1989～1990年度 親睦活動委員長
1991～1992年度 副幹事
1992～1993年度 幹事
1994～1995年度 国際奉仕委員長
1995～1996年度 プログラム委員長
1997～1998年度 職業奉仕委員長
1999～2000年度 インターアクト委員長
2000～2001年度 会員増強委員長
2001～2002年度 副会長・クラブ奉仕委員長
2002～2003年度 会長
2003～2004年度 ロータリー情報委員長

【表彰】

ポール・ハリス・フェロー
15年100%出席表彰
米山功労者

新入会員のご紹介

(敬称略)



辰田 英昭
美唄RC
平成18年
4月1日入会



今村 武
小平RC
平成18年
4月1日入会



渋谷 繁男
小樽RC
平成18年
4月4日入会



早坂 哲
岩見沢東RC
平成18年
4月4日入会



増田 修一
苫小牧RC
平成18年
4月28日入会



片山 孝寛
岩見沢RC
平成18年
5月19日入会



野村 哲資
岩見沢RC
平成18年
5月19日入会

例会変更について・文庫通信

例会曜日・例会時間・例会場の変更について

- 登 別RC：6月7日（水）振替休会
- 6月28日（水）夜間例会 18：30～ 場所：ホテル平安
- 苫小牧北RC：6月27日（火）移動夜間例会 18：00～ 場所：スナック純
- 室 蘭 北RC：6月27日（火）夜間例会 18：00～ 場所：ホテルサンルート室蘭
- 小 樽 南RC：6月16日（金）早朝例会 06：20点鐘 場所：小樽花園公園 見晴亭前
- 6月30日（金）期末懇親例会 18：00点鐘 場所：朝里宏楽園
- 苫 小 牧RC：6月30日（金）2005-06年度最終夜間例会 18：00～ 場所：グランドホテルニュー王子

文 庫 通 信 224号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、1万9千余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

ガバナー月信より

- ◎「ロータリーの旅（合同IM基調講演）」
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー 2006.1 7p (D.2840月信)
- ◎「有事のロータリー 阪神大震災
ロータリーは何ができたのか？」
今井 鎮雄 2006.3 5p (D.2500月信)
- ◎「識字と教育」
小林 博 2006.1 2p (D.2510月信)
- ◎「クラブの活性化とCLP論争」
中村 幸吉 2006.2 3p (D.2640月信)
- ◎「ロータリーと否定の論理」
塚原 房樹 2006.1 3p (D.2510月信)
- ◎「ロータリーの友・雑誌月刊（4月）について
アンケート結果報告」
石松憲一郎 2006.3 13p (D.2740月信)
- ◎「第2750地区全クラブの職業分類表について
—主に女性会員在籍クラブを中心として—」
2005.2 2p (D.2750月信)
- ◎「座談会 ロータリーの本質を考える
～ロータリーの過去、現在そして未来～前編・後編」
2006.2、3 11p (D.2700月信)

[上記申込先：ロータリー文庫（コピー）]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

国際ロータリー為替レート 2006年6月 米貨1ドル=110円

ロータリー財団への
ご協力に感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

平田勝美 会員 2回 (札幌手稲 RC) 4月7日
本間哲 会員 1回 (函館五稜郭 RC) 4月14日

ポール・ハリス・フェロー

柴田徳彦 会員 (小樽 RC) 4月7日
杉江俊太郎 会員 (小樽 RC) 4月21日

6月 ロータリー親睦活動月間

1(木)		17(土)	札幌大通公園RC創立5周年記念式典(札幌) 地区ローターアクト年次大会(札幌)
2(金)			地区インターアクト年次大会(札幌)
3(土)	国際親善奨学生選考試験(札幌)	18(日)	地区インターアクト年次大会(札幌)
4(日)		19(月)	(財)ロータリー米山記念奨学会評議員会(東京) 第16回JGFR北海道大会(苫小牧)
5(月)	札幌南RC創立50周年記念式典(札幌)	20(火)	
6(火)	第4回ガバナー会(東京)	21(水)	
7(水)		22(木)	
8(木)		23(金)	
9(金)		24(土)	新旧地区委員長・ガバナー補佐会議(札幌)
10(土)		25(日)	
11(日)	国際大会(マルメ・コペンハーゲン)	26(月)	
12(月)	〃	27(火)	
13(火)	〃	28(水)	
14(水)	〃	29(木)	
15(木)		30(金)	地区会員増強委員長セミナー(東京)
16(金)			

出席報告

4月出席率・会員増減数

クラブ数	73クラブ
期首会員数	2,986人
当月末会員数 (女性)	3,069人 (101人)
増加会員数	83人
当月平均出席率	84.71%

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			05.7.1	06.4.30	増減	内女性	
1	深 川	3	38	38	0	2	82.86
	羽 幌	4	49	45	-4	1	82.88
	妹 背 牛	4	10	10	0	0	82.50
	小 平	4	13	14	1	0	78.57
	留 萌	4	49	48	-1	0	96.73
	小 計		159	155	-4	3	84.71
	2	赤 平	4	34	35	1	2
芦 別		4	48	47	-1	0	81.97
砂 川		4	50	53	3	0	95.50
滝 川		4	106	104	-2	1	80.21
小 計			238	239	1	3	87.10
3	美 唄	4	41	41	0	0	90.00
	江 別	3	36	38	2	1	87.38
	江 別 西	4	35	35	0	3	91.42
	岩 見 沢	3	95	93	-2	0	90.30
	岩 見 沢 東	4	35	37	2	4	87.10
	栗 沢	4	24	23	-1	1	95.65
	栗 山	4	26	32	6	2	91.75
	当 別	4	38	35	-3	1	79.62
	小 計		330	334	4	12	89.15
4	札 幌	4	123	132	9	0	98.32
	札幌あけぼの	4	16	16	0	1	100.00
	札幌はまなす	4	23	25	2	4	75.00
	札 幌 北	4	43	41	-2	5	92.31
	札幌モーニング	4	53	53	0	0	71.57
	札 幌 西	4	72	74	2	3	91.34
	札 幌 西 北	4	48	49	1	2	92.63
	札 幌 手 稲	4	41	40	-1	1	100.00
	小 計		419	430	11	16	90.15
5	札 幌 東	4	121	121	0	0	97.96
	札 幌 清 田	4	28	28	0	7	100.00
	札 幌 幌 南	4	70	69	-1	0	99.62
	札幌真駒内	4	46	44	-2	3	96.34
	札 幌 南	4	89	92	3	0	95.88
	札幌大通公園	3	19	19	0	4	78.94
	札幌セントラル	4	17	17	0	6	69.10
	新 札 幌	4	32	34	2	2	93.97
	小 計		422	424	2	22	91.48

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				出席率
			05.7.1	06.4.30	増減	内女性	
6	岩 内	4	28	30	2	0	73.08
	倶 知 安	4	50	50	0	3	74.00
	小 樽	4	64	73	9	1	87.87
	小 樽 南	3	82	81	-1	0	91.27
	小 樽 銭 函	4	25	25	0	3	89.00
	蘭 越	4	11	11	0	0	72.72
	余 市	4	44	44	0	4	88.00
	小 計		304	314	10	11	82.28
7	千 歳	4	61	66	5	4	80.60
	千歳セントラル	4	27	28	1	0	83.90
	恵 庭	4	49	49	0	0	80.43
	北 広 島	4	17	19	2	2	89.47
	長 沼	4	18	18	0	3	90.28
	由 仁	4	13	13	0	0	90.38
	小 計		185	193	8	9	85.84
8	え り も	4	23	23	0	0	86.95
	三 石	4	16	18	2	1	97.20
	様 似	4	18	18	0	1	66.55
	静 内	4	66	76	10	0	75.98
	浦 河	4	33	35	2	1	84.29
	小 計		156	170	14	3	82.19
9	伊 達	4	55	59	4	0	72.88
	室 蘭	4	50	49	-1	0	91.67
	室 蘭 東	4	43	47	4	0	89.50
	室 蘭 北	4	37	37	0	2	100.00
	登 別	4	36	35	-1	2	85.71
	洞 爺 湖	4	9	9	0	0	88.90
	小 計		230	236	6	4	88.11
10	函 館	4	91	91	0	0	77.08
	函 館 亀 田	4	43	45	2	1	82.56
	森	4	42	41	-1	0	74.50
	七 飯	4	20	22	2	0	51.80
	長 万 部	5	10	8	-2	0	60.00
	函館セントラル	4	0	41	41	3	77.41
	小 計		206	248	42	4	70.56
11	江 差	5	17	17	0	0	85.00
	函館五稜郭	4	63	65	2	0	92.64
	函 館 東	4	43	41	-2	4	84.31
	函 館 北	4	32	31	-1	0	76.01
	上 磯	4	26	22	-4	2	59.10
	松 前	4	9	9	0	1	70.00
小 計		190	185	-5	7	77.84	
12	白 老	4	23	20	-3	0	80.00
	苫 小 牧	4	56	55	-1	1	71.68
	苫 小 牧 東	4	31	29	-2	3	85.71
	苫 小 牧 北	4	37	37	0	3	87.50
	小 計		147	141	-6	7	81.22
合 計			2,986	3,069	83	101	84.71

SERVICE Above Self

